

頒価 ¥100

MAY 2018
2018.04.20 創刊号

VOL.1

アンビージャーナル

ENVIE Journal

04

路地裏特集

路地裏から始まる物語

Dans ENVIE il y a vie
希望の中に人生がある

01-03

創刊にあたっての想い

- 「神戸らしさ」って何?
- 「もっと面白いことしようよ」
- 「とにかく神戸の街を盛り上げたい」
- 「最近の神戸のいい所ってなんだろう」
- 「国際都市 神戸って、本当にそうなん?」
- 「一緒に生きていく街 神戸」

17-22

FRENCHBLOOM.NET

05-16

第20回記念 フランスフェアレポート

日本最大級のフランスの祭典
日仏を繋ぐ重大な総司会を
小関ミオが務めて参りました

ENVIEジャーナル 編集長
小関ミオ



第20回記念 フランスフェア2018

2018.3.7(水)～13(火) 9階催場・祝祭広場・各階

日本最大級のフランスの祭典。阪急百貨店フランスフェア2018!
今年は何んと第20回記念、そして日仏友好160周年記念のWアニバーサリー!
日仏を繋ぐ重大な総合司会を小関ミオが務めて参りました。
詳しくレポートします!



第20回を記念する今年のテーマは、
パリと美食の街ブルゴーニュ!

伝統を受け継ぎ新たな作品を創造する者。

覚悟を持ってその道を歩み続ける
一流のフランス人クリエイターが50名以上来日しました!



皆さんの魅力を
余すことなく伝えるため
イベント開催中は
毎日早朝の取材からスタート!



パリNo.1の
お店がズラリ!!

A La vie en fruits / Eva Tsuk

パリジェンヌを虜にしたサン=ジェルマンで話題のフルーツジュース専門店。ジュースのメニューは仕入れるフルーツや野菜によって変わります。ジュースのネーミングもオシャレ♡
オーナーのエヴァさんはノリが良く、ステージ中もいつも一緒に歌ったり踊ったりしていました。

B Au Levain D'Antan / Pascal Barillon

パン激戦区のモンマルトルの名店
2011年パリ・バゲットコンクール優勝のあのバゲットが再来日!
外生地が固さも絶妙で、中は引きが強くしっとりモチモチ。
パスカルさんの芯の強さと優しさがそのまま作品になったバゲットです。
オリーブやチーズを織り込んだフィセルも最高のご馳走パン。今年のフランスフェアでも大人気でした!

C Tania & Thierry / Thierry O'doux

2017年のパリ・パティスリーコンクール優勝! フランス銘菓「パリ・プレスト」求めて常に大行列のお店でした! Louis Blanc 駅からすぐのパリ本店は現在改装中とのことなので、日本で食べられた皆さんはかなりラッキー!!
地元ではボランティア活動も積極的にされているティエリーさんの愛情いっぱいのパリ・プレストの味。神戸のパティスリーAKITOさんに頂けるかも?!

D NINA'S PARIS / Josselin Camus

パリのヴァンドームに本店がある 300年の歴史を持つ紅茶の名店。ジョスリンのオススメは、マリーアントワネットが愛したリンゴとバラの紅茶。その名も「マリーアントワネットブレンド」は、なんとヴェルサイユの宮廷菜園で栽培された新鮮なリンゴとバラを使用しています!

E Aurore Capucine / Jean François Petit

ホームページもSNSのアカウントも持たず、パリのロシュショワール通りに面した真っ青な門構えだけが目印のお店。店内に所狭しと並ぶ、カラフルで形も様々なビスケットの量り売りスタイルは道行くパリジャン達を虜にします。伝統的な材料と手法で、ヨーロッパの草花のエッセンスや香りを使用したクッキー。オーナーパティシエのプティさんが旅を通してインスピレーションを受け、何年もかけて納得する原材料を探しながらたどり着いた、一つ一つにストーリーがあるお菓子が魅力です。

F Boissier

1827年創業の「マロン・グラッセ」発祥のお店。なんと一粒1000円の「マロン・グラッセ」はフランスフェア初日にソールドアウトだったそうです驚!
香水の町 グラス出身の創設者が、香料抽出の技術を使ってボンボンを作ったのが始まりのボワシエは、お紅茶や飴(ボンボン)もまた香り高くとても美味しいんです。
当時のままのフランスならではの「ボンボン」が味わえます!



伝統のパリ
と
新しいパリ

A Opéra National de Paris

パリ・オペラ座バレエ学校の公式バレエシューズを手がけるメル社製造のオリジナルシューズブランド。バレエ大好きな私はもう目がハートの夢のような靴でした。バレエシューズの雰囲気はそのままに、手作りではき心地のいいタウンシューズ。

B Marianne Battle / Marianne Battle

オードリー・ヘップバーン、ココシャネル、草間彌生などアイコン的な人物をカラービーズで表現するマリアヌ・バトルの世界。今回のフランスフェアのステージテーマが「パリ・オペラ座」だったので、バレリーナやオペラ座の怪人、オペラ座劇場などのモチーフの作品達も沢山! 全て一つ一つマリアヌさんが手作りで作られています。

C Les Néréides

幼い頃から花や木々の美しさに魅せられたエンゾーと、アーティスト一家に育ち独自の感性を持つパスカルのご夫婦でデザインや全てのプロダクトを演出し手がけている「レ・ネレイド」。フローラルな色彩、繊細でドリーミーなデザインは、芸術作品として飾ってずっと見つめていたい程。パリ・オペラ座のフェミニンで優雅なダンサー達にインスパイアされた「Pas de deux」(パド・ドゥ) シリーズは最高におすすめです!

D Eric et Lydie

パリで誕生した「エリック・エ・リディ」。エリックとリディのデザイナーご夫婦が全て手作りで作り上げるジュエリーブランドです。19世紀のジュエリーや自然や植物からインスパイアされたアンティーク調の優雅で高貴なデザイン。写真は旦那様のエリック。いつもオシャレで穏やかで優しくて、奥様のリディはお花のように優しい雰囲気を纏う素敵なおご夫婦でした。

H Hippolyte Romain / Hippolyte Romain (写真中央)

ダンディーでハンサムで抜群のスタイル、気さくでダンスの腕も素晴らしいイポリット。モンマルトルに生まれ、最初は道端で絵を売っていたそうです。ヴァニティーフェアの編集長に見出されモードのイラストを描き始めます。そして「La Palace」というパリ・モード界のカルチャーそのものだったクラブで毎晩 グレイス・ジョーンズやイヴ・サン・ローラン、アンディー・ウォーホルなどなど、沢山の著名人達を描いてきました。彼が筆を握ればサラサラとあっという間にキャンパスにパリが広がります。今回はアコーディオンの演奏に合わせて巨大キャンパスへのライブペインティングや、来日アーティスト達のコラボ演出には役者として登場するなど、本当に素晴らしく多彩な才能を惜しみなく披露してくれました。

E Ultramod / Anne Christine Urdan

オペラ地区にある1832年創業 パリ最古の手芸洋品店が日本初来日! 生地やりпонも、ものすごいヴィンテージ品や掘り出し物が沢山!! 日本では絶対手に入らないような唯一無二のデザインやカラーが溢れていました。ブティック責任者のアンヌさんがその一つ一つを丁寧に説明してくれます。自分の世界を表現する資材に出会うため、連日デザイナーやクリエイター達がひっきりなしに訪れるパリの街になくはならないお店。

F Anne de Paris / Anne Kiefer

日本語も堪能な美しいアンヌさん。パリの街並みを描いた優しいタッチの水彩画をプリントした傘やスマートフォンケースが大人気でした。さらにアンヌさんは日仏を結ぶ特別な旅の企画・プロデュースもされています。観光では絶対に訪れることができない一流の芸術家達のアトリエ訪問やまさかあの場所で?! の特別なディナーなど全てオーダーメイドで自分だけのパリ体験をアレンジできます。人生の中でいかにラグジュアリーな時間を過ごすかはアンヌさんに全て聞くべし!

G Marché aux Puces / Eric Hebert

「Marché」は市場。「Puces」は蚤。「Marché aux Puces」で「蚤の市」! 今回のフランスフェアのために、フランス各地で集めたプロカント雑貨が登場しました。エリックは、1920年代から現代までのボタンとアクセサリのスペシャリストです。見たこともないような可愛くて、豪華で、美術作品のようなボタンがあることに驚きました。! フランス Vanves の蚤の市では土曜と日曜の8時~13時にエリックのボタンコレクションが並びます。



フランス各地の 美味しい名店アンコール

過去の催しで大人気だった
あの味がふたたび登場しました!



A La Calèche(トゥールーズ) / Philippe Solovieff

フランス トールーズにほど近い、住民400人の小さな町で伝統を守り続けるオーベルジュ「ラ・カレッシュ」。看板料理は南西地方の郷土料理「カスレ」。

白いんげん豆、鴨肉、ソーセージを加えた煮込み料理、仕上げはオーブンで焼き上げます。一口食べたら、もう赤ワインが飲みたくなるでしょう!最高のマリアージュに思わずため息が出てしまうはず。

B Maison Fouquiau Frizot(ロワール) / Magali Frizot, Nicolas Frizot

2012年に創業100周年を迎えた老舗のブーランジュリー&パティスリー「メゾン・フキオ・フリゾ」。団結した家族愛と勤続40年の職人達によって、強靱な信頼関係とチームワークで伝統を守り進化を続ける名店です。2011年にはお店が火災事故にあってしまいましたが、従業員全員で18ヶ月の間キャンプをしながら職業生活を続け乗り越えました。何事にも屈することない強さ、職人気質は、オーナーパティシエールで奥様のマガリと旦那様ニコラとの会話からも感じました。彼らの作る「タルトタタン」は、「一緒に生きる覚悟」と「無償の愛」が込められている特別な作品です。

C Confiture BRUNETON(リヨン) / Philippe Bruneton

最高の状態で果物の味を全て味わうため、フィリップが大事にしているのは最高の原材料。そして妻マリー・フランソワと共に、研究に研究を重ね、果物が持つ潜在的な旨味を引き出します。その鍵は「時間」。果物の収穫タイミング、下ごしらえ、調理してから果物が熟す時間全てが勝負。彼の作品をひと口味わえば「ジャム」だけど「ジャム」じゃない、幸せの味を発見するはず。全てを包み込むようなあたたかい眼差しに確信しました。フランス国内最高位のジャム職人フィリップは、自然、時間を司る宇宙の魔術師なのだ!



D Patisserie Laugel(アルザス) / Sophie Laugel

マリー・アントワネットも大好物だったアルザス1有名なお菓子といえばクグロフ!地元住民に人気のある隠れた名店の味を紹介したい!という阪急スタッフの熱意によって2015年にも来日しているお店「パティスリー・ロジェ」

オーナーのソフィーは2010年にクグロフコンクール優勝、フランスチョコレートコンクール準優勝の経験を持つ実力派女性パティシエール。彼女が作るクグロフは、外はカリカリ、中はモチリに仕上げるのがこだわり!

パートナー、オレリアンとの最強タッグで、常にお店は盛り上がりっていました。

なんと、今回の第20回念フランスフェアでの反響は地元アルザスの新聞でも大きく掲載されたそうです!

E Maison Duculty(リヨン) / Gaetan Duculty

映画に出てきそうな、いかにもソーセージ屋さん!な豪快な笑顔が素敵なオーナーガエタン。

ローヌ=アルプ地方のピラトの中心部にある伝統的なシャルキュトリー「メゾン・デュキュルティ」の五代目です。1870年以来、最高品質の豚肉を用いたドライソーセージの伝統的製造方法、ピラトの澄んだ美しい空気、変わらぬレシピと優れた品質を父から息子へと受け継いできました。そしてガエタンの祖父にあたるルイ・デュキュルティは、仕事、厳しさ、敬意、特に和やかで穏やかな心を持つことに価値を教え込んできました。ドライソーセージはなかなか日本では食べる機会がないですが、炒めても、そのまま おつまみにも、非常食にもぴったりの生きる知恵料理だよ!とガエタンが教えてくれました。

F Olives de Luc(プロヴァンス) / Luc Demange

モンペリエ出身のオーナーのリュック。実は彼は日本に住んで、日本各地でフランスの家庭料理を紹介したり、自ら選んだこだわりのフランス食材を取り扱い、さまざまなレシピと共にフランスの食文化の普及活動をしています。

リュックの絶品オリーブは、プロヴァンスの市場と同じ味のレシピ!きっと皆さんがよく行くお店のオリーブはリュックが作ったオリーブかもしれません。普段は卸専門のお店なので、こうして作り手の方に実際に会ってお話伺えてとても感激しました。リュックの所でオリーブとドライトマトをゲットしたんですが、パスタの具材として適量のつもりが美味すぎていつのまにか全部ペロリ。本当に美味しかったです!



パリにアトリエを持つ
若手クリエイター10
「MADE IN PARIS MARKET」
パリ市手工芸・工芸業者会議所との
コラボ企画。
今パリで注目を集める
10のブランドをピックアップ!

A Laurence Bossion / Laurence Bossion

チュイルリー公園のすぐ近くにアトリエを構える帽子作家のLaurence Bossion。素材を選び抜く鋭い審美眼を持ち、洗練されたセンスと技術で自由自在に視覚的言語を生み出し、様々な表情のシルエットを作り上げます。2015年にはフランス政府からEntreprise de Patrimoine Vivant(無形文化財企業)を授与され、国内のファッション業界だけでなく海外からも絶大な評価を得ているアーティスト!

B TAMBOUR PARIS / Etsuko Harada

パリで注目を集めるクリエイターの中に日本の方がいらっしゃいました! アーティストのエツコ・ハラダさんはパリ在住歴30年以上。2016年にはアニエス・ベーとのコラボレーションを発表。2017年秋に美術手工芸の職業としてフランスから認定され、2018年4月は毎年ヨーロッパで一斉に行われる美術工芸週間においてパリの「匠」に選ばれています。日本の伝統的なニットの技術で、エツコさんの手によって繊細に編み上げられるアクセサリには一つ一つに「祈り」が込められていると感じました。エツコさんの代表作「エデン」という名のイヤリングは東日本大震災の後に生まれた「希望」を象徴する作品。気が遠くなるような世界唯一の鍵編みの技術で約3日間かけて作られています。

C Le Loir en Papillon / Mickael Francois Loir

付まいからも異彩を放っていたミカエル。Papillonとはフランス語で蝶々、そして蝶ネクタイのこと。小さいころから蝶々が大好きでお祖父さんと蝶々を始めとする昆虫採集や標本作りに夢になっていた経験が、今では彼の首元に舞う結び目となり、狩りはエレガンスへと置き換えられました。彼が作る100% MADE IN PARISの作品は、子供の頃の情熱と勇気を取り戻させてくれます。

D ステージで皆さんにインタビュー!

作品を見たり手に取るだけでなく、やっぱり作者の想いを作者の声で聴くことで、より作品に対する理解が深まり出逢いが広がると思いました。

E CHABAUX / Marina Munoz

写真右がデザイナーのマリナ。彼女のお祖父さんは偉大な色彩家でマルセイユで絵画ショップを所有し、そこで「シャポー」と呼ばれる、青みがかかった白を含む「色」を生み出していました。マリナのブランド名はその名も「シャポー」
お祖父さんへのリスペクトと色への愛が込められています。日本のサブカルチャーの影響も多く受けていて、無限に広がる想像をユーモラスに表現するだけでなく、計算されつくしたデザインで完璧に表現するアーティスト。陽気で独創的な彼女の人柄そのもの!



F Ambrym / Gabrielle Gerard(写真中央)

ガブリエルは彼女が描く絵画でテキスタイルを生み出すアーティストです。その色彩感覚やデザインは、彼女が幼少期に育った南太平洋のラグーン、自然以外には何も存在しない島での生活の記憶に強く結びついています。その島の名前「アンブリム」がブランド名となっています。国際若手デザイナーフェスティバルでは特別賞を受賞。オーガニック素材の生地、フランスの有名メゾンの在庫の余りを有効に使い、エコロジー、自然環境にも配慮した作品がコンセプト。

G Alexandre M-S / Alexandre Monneau-Sauvion

カメラマンでありグラフィックデザイナーのアレクサンドルは、自ら撮影した写真と絵画をミックスさせてまず映像ストーリーを作り、その後グラフィック技術で水彩効果(色の拡散効果)を駆使し、絶妙な色に仕上げた出来上がったテキスタイルで様々なコレクションを発表しています。クッションなどの生活雑貨がまるで小さな美術館!ファッション、インテリア雑誌でも引っ張りだこの大人気ブランドで、NYのモードアイコンIRIS APFELもお気に入りなんだそう。日本人の私たちに伝えるために、日本語を一生懸命話してくれたのもすごく感動しました。



H ID ALL Design / M'barka Duida

ジャンヌダルク、マリーアントワネット、モナリザなど、誰もがイメージするフランスにゆかりある絵画のモチーフを、グラフィックでモダンアートに仕上げ、ポーチ、ポシェット、トートバックなどを作っているムバルカ。ポシェットのショルダーストラップは、チェーンにしたり、キャンバス生地でカジュアルにしたり自分好みにチョイス出来ます。いつも物静かに穏やかに微笑んでいるムバルカですが、彼女が生み出す作品はすごく饒舌!トピカルでポップな色合いが元気をくれます。

I Hageli / Claudia Hageli

Hageli(アジェリ)のデザイナー クローディア始め、ファッションにおける環境問題への意識が高いクリエイター達がとても多かったです。ヴィンテージスカーフや洋服をリメイクして、想像もつかないような新たなファッションデザインを創造するクローディア。ニットやコットン、シルクなど素材の違う生地を織り交ぜた女性のためのネクタイや、パリジェンヌのスタイルに欠かせないベルトとバックはちゃんと色を合わせてね、とコーディネートしてくれました。有名メゾン エルメスの実験ラボ「Petit h」にも名を連ね、エルメスの素材を用いて新たな作品を発表するなど、多岐に渡って活躍しています。

J Lisa Pearl Paris / Isabelle Simonet(写真右)

イザベルはシャネル、ゴルティエ、ウナゴロなど有名メゾンで主に刺繍アートのデザインをしてきました。2002年に自身のブランド「Lisa Pearl Paris」を立ち上げ、コレクションのコンセプトから生産まで全てパリで作るレディースウェアを発表しています。しかも全て手縫い!袖、襟元、スカート丈。リサパールのワンピースは、「1枚サラッとワンピース着ただけで小慣れてて可愛いあのパリジェンヌ」になれます!

Eva Koshka / Dominique Kuhn(写真左)

唯一子供服を発表していたブランド「エヴァ コシュカ」
「コシュカ」とはロシア語で猫。来日していたドミニクのご家族のエルザまたの名をエヴァが作る子供服です。ポップな姿勢とアンダーグラウンドカルチャーにルーツを持ち、流行に左右されない特別なスタイルを生み出しています。
ブティックはオペラ座とモンマルトルの中間、メトロのCadet駅またはAnvers駅からすぐ。0歳から8歳までのラインナップがあります!赤ちゃん用のロンパースは悶絶するほどにかわいかったです。

K 各Liveステージ

ワンピース: Lisa Pearl Paris
ヘッドドレス: Laurence Bossion
バッグ・ベルト: Hageli
イヤリング: TAMBOUR PARIS

小関ミオの各Liveステージは、パリを代表する素晴らしい若手クリエイター達とのコラボレーションで日仏一丸となってお届けしました! いくつか同じメンバーとのコラボLive in Parisも実現させるぞー!

A 画家とアコーディオニストによる ライブペインティング ～パリの街角～

画家Hippolyte Romain(From. Parisのコーナーにて紹介)と、アコーディオン奏者Fredy Leseckによるコラボステージ。フレディの奏でる音色に合わせてイポリットが巨大キャンバスにライブペインティング。なんと墨汁を使って描いていました!キャンバスにはCAFÉ DE LA PAIXというカフェのテラスに思い思いに集う人々。「今日この場にいる皆さんをイメージして描いたよ。パリ・オペラ座の隣にはCAFÉ DE LA PAIXというカフェが本当にあるからね。」絵の中とステージ前、現実とイメージで私たちがパリへと誘います。



B オペラライブ

オペラ歌手 Ahlima Mhamdi(写真左)
オペラ歌手 Jérôme Boutillier(写真中央)
ピアニスト Frederic Vaysse-knitter(写真右)
パリ・オペラ座やシャンゼリゼ劇場など、フランスを始め世界各地で活躍しているアーティスト達。ピアニストのフレデリックは今回初めての日本公演。ドビュッシーが日本をイメージして書いた曲「Poisson d'or」(金魚)で来日の喜びを演奏してくれました。迫力のオペラライブに、会場は毎回スタンディングオベーション!アーティスト達も拍手に応え、何度もカーテンコールに登場してくれました。日曜日のステージ大トリを飾ったアリマ・マンディはこの日が誕生日だったので、フレデリックの演奏に合わせて私達みんなでパースデーソングをプレゼントしました。「今までで最高の誕生日です。日本の皆さんありがとう!」と涙を流して喜んでくれました。私たちに素敵な音楽を届けてくれてありがとう!!また日本で演奏して欲しいです!

C スペクタクルショー ～パリの華麗なるオペラとバレエの世界～

バレエダンサー役 Chloë Réveillon, Axel Alvarez
クリスティーヌ役 Anne Rodier
怪人・ラウル役(一人二役) Jérôme Boutillier
遂に!パリ・オペラ座のバレエダンサーがステージに登場しました!!劇場型 感動百貨店の盛大な祝祭イベントもクライマックス突入です!オペラ歌手とバレエダンサーによる特別演目では、フランスの名作「オペラ座の怪人」をオリジナルストーリーで上演。ダンサーは2人共オペラ座バレエ学校出身。アクセルはミュージカル「CATS」に出演するなどタップやオペラの舞台でも活躍。クロエは現役オペラ座ダンサーです!二人の顔の小ささ、体の細さ、筋肉の美しさ、しなやかさ!立ち姿を一目見ただけで、その華麗さに震えるほど感動しました!オペラ座で繰り広げられる怪人とラウル、そしてクリスティーヌの愛の物語。怪人・ラウル役のジェロームの弾き語りオペラは圧巻でした。作品を通して舞台の様子やバックステージの様子など、実際のオペラ座を体験できる豪華絢爛のスペクタクルに会場のアベレージは最高潮!!



9階祝祭広場のステージパリ・オペラ座をイメージ!
ある時はオペラ座前の広場、ある時は劇場の中にあるような優雅な時間。
バレエ、オペラ、ライブ、マジックなどなど、フランスを代表するアーティスト達が続々登場しました!

D ピエロパフォーマンス

ピエロ歴45年以上!パリからやってきたパフォーマーのPIPO!
今回、彼のマジックショーのアシスタントやダンサーとして私も毎ステージ参加していました。出演陣の中で最年長パフォーマーのPIPOですが、誰よりもパワフル!!ずっとピンヒールで頑張っていました。PIPOのステージで全力で踊るため、途中からはフラットシューズに変更!それぐらいいちゃくちゃ踊るステージなんです。PIPOのステージには、アーティスト達や、来日クリエイター達がいつも遊びに来ていて、アコーディオニストのフレディも毎回客席を盛り上げ、一緒に踊っていました。ステージ以外でも、ミス・フランスや、芸者の変装をして会場に登場したり、いつもみんなを笑顔にしていたPIPO。言葉や国を超えてみんなを笑顔に出来るって本当にすごいこと。先輩のパフォーマンスにひたすら感動していた小関編集長でした。

E アコーディオン演奏

パリ・メトロ認可の元、メトロ駅で演奏するアコーディオン奏者Fredy Leseck。今回は5回目の来日!昨年のフランスフェアで「Les Champs-Elysees」と一緒に演奏した時は、私はフレディというアーティストを全く理解していなかった。彼は誰がなんと言おうと、世界一のミュージシャン。一週間通して開催されたフランスフェアで、彼は毎朝誰よりも早く会場にいました。ステージの上で一人でリハーサルをしていました。自分の出番がない時も控え室に戻ることはなく、常に会場でみんなの様子を感じ取り、みんなに話しかけ、PIPOや私のステージの時は一緒に盛り上げ、いつも穏やかな笑顔と優しい口調で、疲れを見せることは一切ありませんでした。イベント期間後半になると、彼はステージの合間に重いアコーディオンを担ぎ、売り場や会場を演奏しながら練り歩いていました。「演奏中はどんなことを考えてるの?」と聞くと、「僕はね、頭じゃなくて心の全てをみんなに届けたいと思ってるよ。」そう言っていました。彼の演奏を聞くために毎日いらっしやるお客様もいらっしやいました。愛に溢れた天使のようなアコーディオン奏者フレディ。彼の奥様は歌手でいらっしやるそうです。「妻が愛の讃歌を歌う時は今でも僕は鳥肌が立つんだ。そして涙が出てくるんだよ。」フレディの愛する人はどんな方なんだろう。きっと彼女の「愛の讃歌」を聞いたら、私も泣いてしまうんだろうな。また来年フレディに会えるのが楽しみです!

熱く熱くご紹介してきた「第20回記念フランスフェア2018」レポート。今回私は総合司会ということで、司会・通訳・レポーター・ライブ・作品解説・演出など色々な事にチャレンジさせて頂きました。

来日アーティスト達、そしてクリエイター達も、今の自分達を全力で伝えながら、1週間を通して日本からも沢山のこと吸収した彼らは更にパワーアップしたように感じました。フランス人だけでなく、阪急スタッフや在仏の日本人の通訳・コーディネーターの皆さんの溢れる愛と絶大なサポートがあってこそ、そして阪急百貨店でしか実現できない、まさに日本とフランスが一つファミリーになった夢のようなフランスフェアでした。

日仏友好161年目はすでにスタートしています。日仏の絆がさらに深まるよう、私の中で、芸術・音楽の友好を深める決意がもっと強くなりました!

来年のフランスフェアがもうすでに待ち遠しいですね!!今回出会った皆さんにまた来年も再会出来ることを祈って!



最終日のステージ大トリを飾るのはピエロのPIPO。ステージ横には続々と来日アーティスト、クリエイター達が集まってきました。「みんな盛り上がりよう!!」



フィナーレではみんなステージに上がってダンス!そしてフランス人のみんなから日本の皆さんへ、歌のプレゼントがありました。アコーディオン奏者フレディ・ルセックによる「はたるの光」の演奏が終わると、みんなが抱き合い、みんなが笑い、会場からの温かい拍手がフランスの皆さんに送られました。